

●教員の養成の目標及び当該目標を達成するための計画に関すること

・大学としての教員養成の目標

- 大学の教育理念にもとづいて「人格の陶冶」「専門の理論ならびに応用の攻究教授」「知徳円満の教養ある人材の育成」を柱とした教員の養成
- 幼児・児童・生徒にしっかりと向き合い、ともに成長することのできる教員の養成
- しなやかな発想力と豊かな包容力を身につけて、地域に貢献することのできる教員の養成

■中学校教諭・高等学校教諭課程

・学芸学部日本語日本文学科

中学校一種免許（国語）、高等学校一種免許（国語、書道）

国語科の目標：古代から近現代までの日本文学に知見を持ち、日本語に関する知識と技能も合わせ持つ、幅広い視野をもつ人材を育成する。

芸術科書道の目標：実技と理論の両面をバランスよく学ぶことで書道の専門性を高め、将来社会に出てその魅力を伝え、社会で活躍のできる有為な人材を育成する。

～計画～

- ①学科の少人数の学習活動の中で、討論を通して自ら主体的に考え意見を表明する態度を育成する。
- ②古典文学から現代文学まで幅広く学ぶことを通して、日本文学とそれに関わる文化の伝統を次世代へと継承しようとする態度を育成する。
- ③国語科教員養成においては、本学科独自の科目として、「古文教材特講」「漢文教材特講」「小説教材特講」「評論教材特講」を設定し、中学・高校の現場での教材研究力と授業展開力をつけることを目指している。
- ④芸術科書道教員養成においては、一・二年次では書道の実技・理論の基礎、三・四年次ではその発展的な内容を学び、最終的には自らの意図に基づいた作品制作ができることを目指す。このような段階的・系統的な書道カリキュラムの運用によって、教育現場で必要とされる実力のある教員の養成を目指す。
- ⑤国語科教員、芸術科書道教員いずれの養成においても、古典や文化に関する科目を学習することを通じて、日本の文学と文化に関する専門性を身につけることのできる専門カリキュラムを配置。
- ⑥理念の具体化を支えるものとしての、地域貢献・地域協働活動。

・学芸学部国際コミュニケーション学科

中学校一種免許（英語）、高等学校一種免許（英語）

英語科の目標：

- 幅広い教養とともに英語に関する知識や運用力を持つ教員の養成
- 国際化社会に柔軟に対応し活躍できる人材を育てることのできる教員の養成
- 他の教員と協力・連携しながら生徒の育成に従事し職務を遂行できる教員の養成

～計画～

- ①4年間で養成する具体的な教員像として以下の4点を設定する。
 1. グローバルな視点に立った英語コミュニケーション能力のある教員
 2. 様々な文化を理解し、国を超えて柔軟に対応する能力のある教員
 3. 学んだことを判断・分析し、日常の教育に活かす能力のある教員
 4. 協力してプロジェクトを企画して遂行する能力のある教員
- ②入学時より教員を目指す学生の意識を高め、計画的に科目を履修して専門性を高めることのできる指導体制を構築する。具体的には、1年次の「国際教養入門」において英語教育・教職課程の概要を紹介し、4年間の履修モデルを提示することで将来教員を目指す学生の自覚を促す。
- ③英語力向上を図る試みとして、定期的に英検やTOEICなどの資格試験の受験を促す。また基礎学力認定として、定められた英検の級やTOEICのスコアを段階的に取得するといったハードルを設けることで、4年間で着実に英語力向上を図ることのできる指導を展開する。
- ④「学校インターンシップ」という科目を設け、本学の小学部、中学部・高等部、さらには神奈川県教育委員会や相模原市教育委員会との連携のもと、学生が教育活動やボランティア活動に積極的に関わることのできる体制を整える。

・学芸学部メディア情報学科

高等学校一種免許（情報）

情報科の目標：

- 情報の正しい利用に対する知識を教えることのできる教員の養成
- 情報倫理について専門性をもった教員の養成
- リベラルアーツに裏打ちされた、情報の概念、現代のデジタル情報における伝達・蓄積の原理、マルチメディア・コンテンツ制作とネットワークを利用した配信について専門的な知識をもった教員の養成

～計画～

情報各分野に専門の教員を配置。

- ①高等部「情報」の授業に対する高大連携

2015年度より、高大連携の一環として高等部2年生全クラスを対象とした「情報」の授業とメディア情報学科の教員が連携した授業を実施しているので、今後も継続してい

く計画である。メディア情報学科の学生が使用している情報処理教室で、Adobe Photoshop を利用するなど大学の講義を疑似体験してもらう内容となっている。この「情報」の授業において、本学科の教職課程を履修している学生には学生補助として参加してもらう。1～3年次の学生には、生徒のサポートを行いつつ、授業の進行を実地で学んでもらう。4年次の学生は教育実習を終えた時期でもあることから、教員のサポートの元で授業の進行においても実地で学んでもらう。

②地域貢献・社会貢献活動との連携

地域貢献・社会貢献活動として、近隣商店街や自治会等との連携活動、相模女子大学併設の小学部や高等部との連携活動を積極的に展開してきており、地域貢献・社会貢献に関わることのできる情報科教員の養成を行う。

・栄養科学部健康栄養学科

中学校一種免許（家庭）、高等学校一種免許（家庭）

家庭科の目標：

- 「実践力と応用力を伴った幅広い食関連の知識と技術を身につけた栄養士の養成」という学科の教育目標と連動した形で、栄養学・調理学の知識および技能を高度に身につけ、食育を推進することができる家庭科教員の養成
- 衣・食・住生活、生活経営など、家庭科の全ての分野をバランス良く指導することができる総合力を身につけた教員の養成
- 小学生から高校生までの成長・発育と生活環境の変化を見通した上で、各学校段階において適切な学習・教育内容を構想しうる家庭科教員の養成

～計画～

- ①食生活分野の充実（教職科目として栄養学、食品学、食品衛生学、調理学など講義7科目14単位、実習・演習として調理学実習・調理科学演習など3科目4単位）
- ②同一キャンパス内にある併設各校（小学部、中学部・高等部、認定こども園幼稚部）との連携による教育ボランティア活動の推進、並びに相模原市教育委員会との連携により、相模原市立小・中学校への学生ボランティアの派遣

■幼稚園教諭・小学校教諭課程

・学芸学部子ども教育学科

幼稚園教諭一種免許、小学校教諭一種免許

養成の目標：

本学科は、乳幼児期および児童期の子どもの発達や特性についての全体像を把握し、基礎理論を系統的に学んだ上で幼児教育、児童教育へと専門分化していき、幼小連携にも対応できる小学校教諭・幼稚園教諭を養成することを目標としている。

～計画～

①実践的指導力のある教員の養成をめざし、以下の4つの実践的指導力を設定している。

1. コミュニケーション力のある教員
2. 創造性豊かな教員
3. 特別支援教育への関心が高い教員
4. カウンセリング・マインドを備えた教員

この4つを身につけさせるために、「指導法実践研究」や「子育て支援実践研究」などの実践的な科目を計画している。

②「教育インターンシップ」や「教育実習」をはじめあらゆる授業において併設各部と緊密に連携していく。

③学内の教育活動だけでなく、学外のボランティア活動に対しても組織的に取り組む。

■特別支援学校教諭課程

・学芸学部子ども教育学科

特別支援学校教諭一種免許

養成の目標：

- 本学科で小学校・幼稚園いずれかの「普通」免許取得を目指しつつ、さらに特別支援学校教員養成課程で専門科目を学び、普通免許とともに特別支援学校教諭の免許を取得する。
- 特別支援学校に置かれる教職に関する専門的な知識・技能の修得。
- 特別支援教育に関わる学問並びに3領域（知的障害者、肢体不自由者、病弱者〈身体虚弱者を含む〉）の総合的な教育及び研究を通して広く教育の発展に寄与し、特別支援学校の教職に必要な専門的な知識・技能を身につけた、理論及び実践の両面にわたる力量ある質の高い教員の養成。
- 特別支援学校の教員としての社会性や対人関係能力の育成。
- 特別支援学校・学級に在籍する多感かつ多様な生徒に対して柔軟に対応し、PT・OT・STなどを含めた他の支援専門家と協力・連携しながら生徒の育成に従事し職務を遂行できる教員の養成。
- 通常の学校・学級に在籍する発達障害を含めた障害のある児童・生徒や、障害がないが個別の指導や支援を必要とする児童・生徒に適切に対応できる教員の養成。

～計画～

①実践的指導力のある教員の養成をめざし、以下の5つの実践的指導力を設定している。

1. インクルーシブ視点に立った高いコミュニケーション能力のある教員。
2. 特別支援教育の基本的な考え方、特別支援学校の仕組みと実際の教育、小・中学校等における特別支援教育、個別の教育支援計画等について具体的に理解かつ対応する能

力のある教員。

3. 様々な障害のある児童・生徒の理解と指導・支援に対応する能力のある教員。
 4. 発達障害のある児童・生徒の支援について学んだことを学校現場で実践し、評価・相談・指導する能力のある教員。
 5. ノーマライゼーション理念とインクルージョン教育の具体化を支えるものとしての、地域連携と地域福祉活動を実践できる教員。
- ②特別支援教育は、教育学・心理学・生理学・医学・社会福祉学などの幅広い研究領域の基盤に立っている。教育・研究にあたってはそれぞれの専門分野に偏ることなく、特別支援教育についての広い視野や学識の習得を目指した指導がなされる。特別支援教育の成果に基づいて、通常の学校・学級や児童福祉施設等における特別ニーズを有する子ども達の発達支援や教育方策の探究にも取り組む。

■栄養教諭課程

・栄養科学部管理栄養学科

栄養教諭一種免許

養成の目標：

- 管理栄養士と教員の専門性、児童・生徒へ愛情深く指導する豊かな人間性、バイタリテイと創造力を合わせもつ栄養教諭の養成。
- 「学校給食の管理」と「食に関する指導」を一体化し、学校の現場で栄養教諭に期待される役割を、教育カリキュラムとして位置付け、多職種と協働しながら遂行できる栄養教諭の養成。
- 家庭や地域とも連携しながら、よりよい地域環境づくりも担える力をもつ栄養教諭の養成。
- 適切な教育カリキュラムを計画、実施、評価、及び改善ができる栄養教諭の養成。
- 教員となった以後も成長し続ける栄養教諭の養成。

～計画～

- ①現職の栄養教諭が「学校食育指導論」を非常勤講師として担当し、現場に近い指導体制により、授業内容の充実を図る。
- ②神奈川県並びに近隣の市町村教育委員会の連携・協力体制の充実に向け、県及び市町村等の教育委員会指導主事による講義の機会を設ける。
- ③併設校（小学部等）における食育の授業の実施や見学、教育実習実施校での学生ボランティアとしての関わりを推進する。

■栄養教諭専修課程

・栄養科学研究科栄養科学専攻

栄養教諭専修免許

養成の目標：

○教育の場において、児童・生徒に対し、よりよい食行動変容の支援や、実践的で効果的なアプローチが的確に指導できる高い専門性をもった教員の養成。

～計画～

- ①専修免許取得に関わる科目内容の充実、専門性の高度化を目指す。
- ②学部の栄養教諭養成科目の授業補助を経験することで、指導方法を学ぶ機会を設ける。
- ③本学併設部（小学部等）との連携による実践力を強化する。

■教職センター

本学の教職センターは、保育士・幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・高等学校教諭・栄養教諭など、教員・保育士をめざす学生の全学的な支援機関として2016年4月に開設され、2019年度からは特別支援学校教諭課程の開設に伴い、特別支援学校教諭をめざす学生の支援も行っている。

教職センターでは、教職や保育に関する豊富な知識と現場経験をもった専任教員による教員・保育士をめざす学生及び卒業生の相談・指導に当たること、より質の高い教員・保育士として実践的な指導力が身につけられるようきめ細やかなサポートをしている。

また、教職センターが行う事業として、次の8つの事業がある。

(1) 組織体制・強化充実事業 (2) 日常の相談・指導事業 (3) 採用試験対策事業 (4) 交流事業 (5) 連携事業 (6) 広報事業 (7) 調査・研究事業 (8) その他事業
上記事業のうち、特に採用試験対策講座に重点を置いて指導に当たっている。

なお、その一環として、「合格者と在学生との交流会」、「教職・保育士に就いている卒業生と在学生との交流会」、「合宿講座」などを通じて、さらに合格実績を上げていくことを目標としている。その他に、認定こども園から大学院までが一つのキャンパスの中にあるという本学園の特徴を最大限に生かして、学生を認定こども園、小学部、中学部・高等部へ紹介する教育ボランティア制度をはじめとする連携事業も積極的に行っている。